

【第1部】発表1

ゲーム言説を通じた
日独間の若者文化の比較

井上明人 Akito Inoue

●立命館大学 映像学部 専任講師

【第1部】発表2

日独における
アナログゲームの比較と
若者のゲーム参与に
関する研究

今井信治 Nobuharu Imai

●立教大学 兼任講師
東京家政大学、東京工芸大学、
大妻女子大学 非常勤講師

現代文化にみる

東西の交流

【第2部】発表3

ドイツと中国の
オンライン
コミュニティにおける
村上春樹文学受容

呉江城 Wu Jiangcheng

●京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程

【第2部】発表4

日本とドイツにおける
飲泉文化の環境史

野田岳仁 Takehito Noda

●法政大学 現代福祉学部 准教授

【第3部】全体ディスカッション

モデレーター

田野大輔 Daisuke Tano

●甲南大学 文学部 教授

2022年 **2月16日** (水) 16:00~19:30 (受付開始15:00)

会場 **ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川**
オンライン講演(ZOOM)同時開催

※要事前申込 / 参加費無料 (会場での参加は先着 60名)

お申し込み方法 山岡記念財団ホームページより
お申し込みください。 ↓ ⇄

<https://yamaoka-memorial.or.jp/event/2022/0216-01.html>

申し込み締切 2022年2月15日(火) 12:00迄



主催 一般財団法人 山岡記念財団 〒530-0013 大阪市北区茶屋町 1-32 YANMAR FLYING-Y BUILDING Tel:06-7636-0219 Fax:06-7636-0212 E-mail:yamaoka-memorial@yanmar.com



■発表者 パネラー



井上 明人 Akito Inoue

立命館大学 映像学部 専任講師
ゲーム研究者。
震災時にリリースした節電ゲーム #denkimeterで
CEDEC AWARDゲームデザイン部門優秀賞受賞。
単著に「ゲーミフィケーション」
(NHK出版 2012)。

ゲーム言説を通じた日独間の若者文化の比較

ゲームの文化は、ここ数十年の間にグローバル・マーケットを形成した文化である。そして、ウェブ上に多くのユーザー行動の足跡が残されている。こうした特質から、ゲーム文化は、現代文化を国際的に比較研究として進めていく上で最良の材料の一つとなりえるものであり、我々のチームは、この文化をいかにして定性・定量の両面から明らかにしていくかということに取り組んでいる。



今井 信治 Nobuharu Imai

立教大学 兼任講師
東京家政大学、東京工芸大学、
大妻女子大学 非常勤講師 専門は宗教社会学。
メディア論や観光学の知見も応用し、
ポピュラーカルチャーを通じた
緩やかなコミュニティ形成に
関心を持って研究を行っている。

日独におけるアナログゲームの比較と若者のゲーム参与に関する研究

ここ四半世紀以上にわたる国際ゲーム市場はデジタルゲームに支配され、VR/ARの浸透も相まって現実世界との輪郭が曖昧になりつつあるように思われる。しかし近年、ドイツを発祥とするアナログゲームが世界中で注目を集めつつあり、日本でも徐々にファンを増やしている。アナログゲームは、家族や友人と顔を突き合わせて競い合い、そして笑い合う。対面を基本とする特徴を持ったアナログゲームの研究、およびドイツのライフスタイル研究は、ゲーム画面や仮想現実に取り憑かれた現代若者文化を逆照射するにあたって格好の題材となろう。



呉 江城 Wu Jiangcheng

京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程
現代中国の都市新中間層のメディア表象に関する
社会学的研究を行っている。
村上春樹文学のファンでもある。
村上春樹文学が中国の都市新中間層文化として
受容された事例としての「小資村上」の生成にも
興味関心がある。

ドイツと中国のオンラインコミュニティにおける村上春樹文学受容

村上春樹文学は東アジア圏、欧米圏を席卷した「世界文学」と認識されている。しかし、2000年代以降の村上春樹文学ブームは、情報社会化とグローバル化と絡み合った現代の若者文化の在り方の変容を基盤としている。「日本文学」、「若者文学」、「世界文学」という複層の文脈において、日本発の文化を受け入れている。中国とドイツの比較を通して、海外の若者にある村上春樹文学受容の多様な在り方を明らかにしたい。



野田 岳仁 Takehito Noda

法政大学 現代福祉学部 准教授 専門は社会学
(環境社会学・地域社会学・観光社会学)
現場に暮らす人びとの価値観や生活の論理を
踏まえた環境保全・まちづくり・観光政策を探索。
近年は地域の水資源を観光資源とした
アクアツーリズムという新しい観光実践の
研究に取り組む。

日本とドイツにおける飲泉文化の環境史

なぜドイツにおいて飲泉文化は観光資源にまで発展し、日本では飲泉文化が発展しないのだろうか。ドイツにおいて温泉といえば、浸かるための風呂ではなく、温泉の水を健康目的で飲む行為＝飲泉として、観光資源や人びとのライフスタイルに定着している。その一方で、日本において飲泉を勧める温泉地は増えつつあるものの、その広まりや認知度からすれば一般的にはなっていない。同じ温泉水をめぐる、なぜこのような発展の違いが生まれたのかを分析し、日本の飲泉文化醸成のヒントを探りたい。

■モデレーター



田野大輔
Daisuke Tano

甲南大学文学部教授・
山岡記念財団諮問委員

■特別協力



ビョーン=オーレ・カム
Björn-Ole Kann

京都大学大学院文学研究科講師



吉田 純
Jun Yoshida

京都大学大学院人間・環境学研究科教授・
山岡記念財団諮問委員

**感染症予防対策のため
ご協力をお願いします**

- 施設入口にて検温を実施させていただきます。
- マスク着用、こまめな手洗い、アルコールなどによる手指消毒をお願いします。
- 風邪の症状のある方、倦怠感、息苦しさなどのある方のご来場はご遠慮ください。
- 会場内の混雑を防止するため、入場制限、退場規制をする場合がございます。ご了承ください。

**京都市 新型コロナ
あんしん追跡サービス**

このQRコードを読み取り、登録していただいた方には、この会場で新型コロナウイルスの感染が確認された時に、メールにより注意喚起情報をお送りします。(※登録いただいたメールアドレス以外の個人情報は取得しません)



【会場】 ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町19-3

【アクセス】

- JR京都駅より～(所要時間 約30分) 市バス4、17、205番「荒神口」下車、徒歩5分
京都バス17番「荒神橋」下車、徒歩2分
- バス停「四条河原町」より～(所要時間 約15分) 市バス3、17、205番「荒神口」下車、徒歩5分
京都バス16、17番「荒神橋」下車、徒歩2分
- 京阪電車～ 「神宮丸太町」下車(5番出口)、北に徒歩6分
「出町柳」下車(2番出口)、南に徒歩8分

